

オーストラリア学会報

Australian Studies Association of Japan

第62号

2011年4月26日

<http://www.soc.nii.ac.jp/asaj/>

1. 第22回全国研究大会（2011年度総会）のご案内

開催日：2011年6月11日（土）・12日（日）

会場：早稲田大学・早稲田キャンパス（〒169-8050 東京都新宿区西早稲田 1-6-1）

<http://www.waseda.jp/jp/campus/waseda.html>

※交通アクセスについては6頁もご参照ください。

※プログラムは変更される可能性があります。詳細は学会ウェブサイトでご確認下さい。

□6月11日（土）第1日目

9:00-12:00 理事会（教室未定）※確定次第学会ウェブサイト等でお知らせいたします。

12:30 受付開始（教室未定）

13:00 開会司会：永野隆行（獨協大学）オーストラリア学会副代表理事

開会挨拶：有満保江（同志社大学）オーストラリア学会代表理事

開催校挨拶：竹本幹夫 早稲田大学坪内博士記念演劇博物館館長

13:30-18:00 特別企画：「演劇をとおしてみる日豪の出会い～John Romeril 『ミス・タナカ』をめぐって」（早稲田大学演劇博物館グローバルCOE 合同企画）

司会：佐和田敬司（早稲田大学）

○特別講演 John Romeril（劇作家）

○『ミス・タナカ』リーディング上演（演出：和田喜夫）

○シンポジウム John Romeril（劇作家）／和田喜夫（演出家）／

有満保江（同志社大学）／山内由理子（シドニー工科大学）

18:30-20:30 懇親会 会場：「西北の風」早稲田大学 大隈記念タワー（26号館 15階）

□6月12日（日）第2日目

9:30 受付開始（10号館1階）

10:00-12:00 一般個別研究報告

《第I分科会》（10号館1階101教室）司会：田澤佳昭（道都大学）

《第II分科会》（10号館1階102教室）司会：塩原良和（慶應義塾大学）

12:00-13:00 昼食休憩／理事会（10号館1階103教室）

「日豪演劇交流」ミニ展示 自由見学（5号館 早稲田大学演劇博物館）

13:00-13:30 総会（8号館3階308教室）

13:40-16:00 シンポジウム（8号館3階308教室）

「オーストラリアの言語教育政策～多文化社会化する日本への提言」

司会：宮崎里司（早稲田大学）

報告者：渡辺幸倫（相模女子大学）、嶋津拓（大東文化大学）、

Karen Sandercock（オーストラリア大使館）、宮崎里司（早稲田大学）

- ◆宿泊先：恐れ入りますが、宿泊は各自で確保願います。
- ◆出 欠：全国研究大会参加の有無にかかわらず、同封の返信用葉書に必要事項をお書き込みのうえ、6月4日(土)までにご投函ください。
- ◆懇親会：懇親会費は5,000円程度を予定していますが、多少変動することがあるかもしれませんので、その節はご容赦ください。懇親会費は当日大会受付で申し受けます。なお、懇親会への参加は必ず同封の返信用はがきでお知らせくださるようお願いいたします。

2011年度オーストラリア学会
基調講演・特別企画・シンポジウム概要

特別企画：「演劇をとおしてみる日豪の出会い～John Romeril『ミス・タナカ』をめぐって」

早稲田大学演劇博物館グローバルCOEとの合同開催による本企画は、「演劇」とおしたオーストラリア研究の可能性を探求する。オーストラリアを代表する劇作家であるJohn Romerilは、日本でも翻訳上演された名作『フローティング・ワールド』以来、日本に深い関心を抱いてきた。日豪の様々な出会いを描いたロメリルの三部作の一つ『ミス・タナカ』は、ブルームの日本人真珠貝ダイバーの歴史を背景にした、幻想的な喜劇である。本企画は、John Romerilによる特別講演を行い、さらに『ミス・タナカ』のリーディング上演で、この作品を日本に初めて紹介する。またシンポジウムでは、劇作家の意図、演出の実際、ブルームの日系人と先住民との出会いを含む歴史的背景、Xavier Herbertの短編小説を原作とするこの戯曲の成立過程、さらにこの作品が日本で上演される意味について報告、議論し、また、これまでのオーストラリア戯曲の日本上演史を概観する。

シンポジウム：「オーストラリアの言語教育政策：多文化社会化する日本への提言」

本シンポジウムは、多文化主義を国是とする移民先進国として、さまざまな言語政策実験を試みてきたオーストラリアが直面する、いくつかの課題に焦点を当てる。具体的には、各民族の文化を尊重する多文化共生社会のキーワードである「多様性」と、社会の均質性や安定性につながり、伝統的な共通規範を継承させる上で不可欠なコンセプトである「結束性」は、いずれも、適応共生を考える上での課題と目されている。今後移民受け入れ国となり、多文化共生社会への変換が迫られる日本にとっても、この二つの異なる概念をどのように統合させるのかは、早急に対応が迫られる。パネルでは、LOTE言語としてのアジア言語教育政策、言語使用状況を調査するセンサスや、社会統合の指標とされる市民権テストから見た移民言語政策に加え、労働移民としての外国人看護師・介護福祉士の多文化多言語的検証、そして、連邦政府としての言語政策全般の動向の紹介を含め、移民国家としての方向性を模索し始めた日本の言語政策に、どのような提言が図れるのかを提起する。

(佐和田敬司)

**2011年度オーストラリア学会全国研究大会
一般個別研究報告者および報告要旨**

【第Ⅰ分科会】

1) 杉田弘也（青山学院女子短期大学・神奈川大学）
「2010年総選挙の意義」

2010年8月21日に行われたオーストラリアの連邦総選挙は、年はじめには圧勝が期待されていた労働党政権が、過半数割れに追い込まれ70年ぶりの少数政権が実現した。本発表では、このような結果を生んだ原因を分析するとともに、ギラード政権の少数政権としての議会運営を精査し、次の総選挙までのオーストラリア政治の行方を探りたい。とくに、メルボルンやシドニーなど大都市の都心の選挙区で労働党を脅かし、下院議席を獲得したグリーンズの躍進が、恒久的な投票行動の変化とtwo-partismの終焉を意味するののかを考察する。

2) 浅川晃広（名古屋大学）「オーストラリアにおける技術移民政策の変遷 ～ハワード政権からギラード政権まで～」

本発表は、オーストラリアにおける技術移民受入政策の変遷について、主にハワード政権成立時(1996年)から現在(2011年)の間に着目して明らかにするものである。技術移民の受入は豪州に経済的・社会的利益をもたらすものとして、自由党・国民党連合政権及び2007年以降の労働党政権下においても積極的に展開されている。その中でも特に「ポイント制度」については、この間に目まぐるしく変更されている。

※大会報告者（海外在住者）への交通費助成について
第13回全国研究大会から、報告される会員には海外在住者に限り、交通費助成（一律5万円）を行うことになっております（2001年12月18日第5期1回理事会決定）。発表申し込みの際に、その旨明記してください。理事会で申請案件を審議決定いたします。

【第Ⅱ分科会】

1) 多田稔（近畿大学）「ミナミマグロ養殖業の現状と課題」

ミナミマグロ養殖業はサウスオーストラリア州において重要な産業であり、同州の養殖業における生産額の約1/2、雇用の1/3以上を占め、大部分は日本に輸出される。オーストラリアではCCSBT（みなみまぐろ保存委員会）から付与された漁獲枠に対してITQ（譲渡可能個別割当）が設定されており、理論上は産業の効率化に寄与すると考えられている。しかし、養殖技術が蓄養方式であるため、漁獲枠の削減によってその機能の発現が妨げられている。

2) 濱嶋 聡（名古屋外国語大学）「アボリジニ生徒へのTwo-Way学習をめぐる論争」

南オーストラリア州教育省へ提出された Charles Darwin University, School for Social and Policy ResearchによるReviewをもとに、①その地域の人々が、オーストラリア社会で不利益を被らないための力をつけること、②伝統的な文化、アイデンティティを強化するというバイリンガル教育の2つの目的が引き起こす論争について発表。

3) 朝水宗彦（山口大学）「オーストラリア地方部における国際イベントの多様化」

オーストラリアにおける国際的なイベントといえば、シドニーのマルディグラやメルボルンのムンバなど、大都市で開催されるものがよく知られている。国際展覧会や国際会議なども両市に加え、ブリスベンやパースなど、主に大都市で開催されてきた。しかしながら、近年の世界的な傾向として、ラスベガスやオースランドなど、地方都市でも国際的なイベントが少なからず開催されている。さらに、巨大な設備を必要としない中小規模の国際会議の場合、タウンズビルやブルームなど、国際線のアクセスが良好とはいえないより規模の小さい地方都市でも見られる。

2010年12月～2013年12月役員一覧

[代表理事] 有満保江
[副代表理事（総務）] 鈴木雄雅
[会計担当理事] 川口章
[広報・会報担当理事] 塩原良和
[副代表理事（企画）] 永野隆行
[全国研究大会担当理事] 塩原良和、田澤佳昭
[プロジェクト担当理事] 鎌田真弓、松繁寿和、
福嶋輝彦、村上雄一
[関東例会担当理事] 塩原良和、橋本雄太郎
[関西例会担当理事] 加賀爪優、南出眞助

[副代表理事（編集）] 加藤めぐみ
[学会誌担当理事] 飯笹佐代子、川口章、
藤川隆男、安田純子
[HP担当理事] 小林信一、鈴木雄雅

[監事] 関根政美、谷内達

※8期事務局は最終頁奥付のとおりです。

2. 豪日交流基金助成 オーストラリア学会主催シンポジウム

「多文化社会におけるマルチリテラシー」のお知らせ *非会員の方も参加できます。通訳付き

日 時：2011年7月2日（土）・3日（日）

場 所：慶應義塾大学日吉キャンパス来往舎 〒223-8521 横浜市港北区日吉 4-1-1

<http://www.keio.ac.jp/ja/access/hiyoshi.html> ※東急東横線・目黒線・横浜市営地下鉄日吉駅すぐ
※入場無料・事前申込み不要。どなたでもご参加できます。

連絡先：塩原良和（慶應義塾大学）shiobara@law.keio.ac.jp

□第1日目：7月2日（土）10:30開始（来往舎2階大会議室）

10:40-12:00 基調報告1「スクリーンリテラシーとカリキュラム改革- 視覚文化・リテラシー学習・教育格差」ビル・グリーン&ジェーン・ミルズ（チャールズ・スタート大学）

1:00-2:30 上映セッション

セッションA：日豪のシネリテラシー実践報告・作品上映（小会議室）

提題者：ジェーン・ミルズ、高橋研一郎（慶應義塾大学大学院）他

セッションB：川崎市におけるシネリテラシー実践の取り組み（大会議室）

提題者：千葉茂樹（日本映画学校）、広岡真生（「映像のまち・かわさき」推進フォーラム）

3:00-5:00 全体セッション“Multiliteracies, Multimodalities and Literacy Learning”（大会議室）

報告：ビル・グリーン、佐藤元状&坂倉杏介（慶應義塾大学）

□第2日目：7月3日（日）10時開始（来往舎2階大会議室）

10:00-11:00 基調報告2「他者との対話とコスモポリタニズム」塩原良和（慶應義塾大学）

11:30-1:00 全体セッション「スクリーンリテラシー」

報告：ジェーン・ミルズ、柳沼宏寿（新潟大学）

2:00-3:20 総括討論

3. 追手門学院大学オーストラリア研究所共催 第12回地域研究会（関西）報告 南出眞助

去る2011年2月26日（土）14:00~17:00に追手門学院大学で行われた。全体テーマは「オーストラリアの子どもの福祉と保育を考える」。追手門学院大学がオーストラリアからの報告者を招聘したため、共催の形をとった。前半は平野知見氏（京都造形芸術大学）による「オーストラリアの多文化保育：シドニーとブリズベンの事例から」。第5回地域研究会（2007年）以後の新たな知見も加えて、コミュニケーションの困難性を克服し多文化保育を推進するための保護者の役割と地域の連携プレーが強調された。後半はピーター・デイビス氏（イプスウィッチ特別支援学校）による「クイーンズランド州の障害児教育」。単に教育現場からの事例報告だけではなく、地域や行政とどう関わるのか、法令や制度との関係などについても検討が加えられた。これに関して、滋賀県の障害児教育に長年貢献してきた齋藤昭氏（社会福祉法人大木会）からのコメントがあり、続いて総合討論を行った。豪・日の違いや研究者と現場担当者の認識の違いを超えて、多方面にわたる質疑応答に共感を得た参加者も多かったと思われる。参加者30名。

4. 追手門学院大学オーストラリア研究所 公開研究会報告 南出眞助

去る2011年2月18日（金）15:00~16:20に、追手門学院大学で行われた。報告は小林啓晃氏（日本電工株式会社 執行役員、もと新日鉄オーストラリア(株)代表取締役）による「日豪鉄鉱石貿易の歴史と未来像」。内容は単なる企業戦略の紹介にとどまらず、鉄という金属資源が持つ人類学史的再検討から出発し、オーストラリアの鉄鉱が世界市場でどのように位置づけられるのかが初心者にもわかりやすく説明された。そこから、鉄山のオーナーの国際的な戦略、さらに巨大消費国中国の参入に伴う日本の相対的地位の変動、そして将来に向けての展望が開陳された。研究者は、とすれば目先のデータばかりを追いがちであるが、今回の報告では企業側のスケールの大きな、かつ具体的な見通しをもった世界戦略に圧倒させられた印象であった。質問をすればするほど興味が深まったといえる。参加者15名。

5. 2010年度豪日交流基金助成 オーストラリア学会講演会 ゲイル・ジョーンズ特別公開講演会 「謝罪のポエティクス—沈黙、歴史、暴力」報告 加藤めぐみ

本講演会は、オーストラリア学会とオーストラリア・ニュージーランド文学会（ANZLS）との共催により、2010年9月25日14:00~17:00に日本女子大学で行われた。講演者のジョーンズ氏は現代オーストラリア文学を代表する作家の一人で、その文章に見られる卓越した表現力と豊富な語彙、知的複雑さを持つ物語構成、鋭敏なユーモア感覚には定評がある。この講演で取り上げられた長編 *Sorry* は、オーストラリア先住民とヨーロッパ系入植者の関わりを西オーストラリアのキンバリー地域を舞台に描き「謝罪」の意

味を問うものである。佐藤渉会員（立命館大学）の要を得た解題も本講演理解の助けとなった。英語圏文学におけるポストコロニアル的な問題を扱った本講演は、オーストラリア研究者だけでなく、文化・文学研究者や学生、一般読者にとっても興味深いものであった。講演録は学会誌第24号に掲載される。なお当日は詩人ボニー・キャンディ氏の自作詩朗読も併せて行われたが、これについてはANZLS編『南半球評論』第26号に掲載されるのでそちらを参照して頂きたい。

6. 2010年度豪日交流基金助成 オーストラリア学会秋学期大学院公開講座報告 杉田弘也

2010年12月18日（土）午後2時～5時、慶應義塾大学三田キャンパス大学院校舎325B教室にて、公開講座が開催された。今回は「政治特集」として、2010年8月の総選挙の結果労働党が少数政権として2期目を迎えていることについて、杉田弘也（神奈川大学）が、「オーストラリアの2010年総選挙とその影響」により選挙結果の分析と、オーストラリアが2党制から穏健な多党制へ変化しているのではとの問題提起を行った。これを受けて、高安健将氏（成蹊大学）から、「空洞化する二大政党制—2010年総選挙後の英国政治の動向」として、オーストラリアと同様2010年に総選挙が行われて連立政権が成立したイギリスの動向、安井宏樹氏（神戸大学）から、「戦後ドイツ政党システムの変容：多党化と遠心化」として、多党化が進むドイツの事例とオーストラリアとの比較について報告が行われた。大学生を中心に多くの参加があり、フロアからも相当突っ込んだ質問が投げかけられました。気鋭のイギリス政治とドイツ政治の専門家を招き、比較研究することで、オーストラリア政治をいつもとは異なった視点から考え直すことができる機会となった。

7. 2010年度豪日交流基金助成 関西医科大学大学院公開講座報告 三宅眞理

2011年2月4日（金）午後5:00～6:30、関西医科大学付属滝井病院南館臨床講堂にて、オーストラリアのメルボルンにある高齢者介護サービス（サマリンドロッジ）の看護師長 Jo Laker 氏と介護の質における教育担当者 Karen Wilson 氏が「オーストラリアの介護とITの導入」と「ノーリフト」（人力による介護を避ける）について報告した。オーストラリアも日本と同様で高齢者の割合が増加し、介護労働者数の減少と介護の質の低下が問題である。これらの問題解決にITや介護機器を活用することは大きなメリットとなる。ITの導入により介護者の時間の余裕ができるなどの利点と遠隔医療、看護、介護の連携の利点が述べられた。ノーリフトの導入は腰痛を防止するだけでなく、患者の身体負担を軽減することでケアの質を高める。雇用者も機械リフトの導入が義務づけられており、反すれば法的な措置をうけるなど日本との相違が明らかであった。日本の介護の労働災害の現状報告を富岡公子氏（奈良県立医科大学）が報告し、保田淳子氏（日本ノーリフト協会）が日本での導入の問題点を報告した。最後にオーストラリアが経験してきた改善の歴史や努力について討論され、日本の医療・看護・介護の従事者に対して改善を試みる良い機会となった。



8. 『オーストラリア研究』投稿募集および研究文献目録掲載のお知らせ

『オーストラリア研究』に掲載する論文を募集しています。投稿はいつでも受け付けておりますが、次号25号に掲載する論文の投稿は8月末日が締め切りです。詳細は、学会ウェブサイト、もしくは24号掲載予定の「投稿要領」（2009年7月12日一部改定）をご覧ください（投稿先：〒105-0001 東京都港区虎ノ門1-15-16 海洋船舶ビル8階 CANPAN センター内 ACNet オーストラリア学会事務局担当 Tel 03-5251-3967 Fax 03-3504-3909 E-mail ac056-asaj@canpan.org）また第12号以降、会員の研究文献目録を継続して掲載しております。引き続き会員の協力をお願いします。発表された著書、論文、報告書、翻訳などのなかから、オーストラリア学会の趣旨に関係する目録未掲載の研究文献を選び、お知らせください。締め切りは2011年10月30日（期日厳守）。編集作業の都合上、電子メール（またはテキストファイルを含んだFD）をご利用ください。記入例はバックナンバーを参照し、掲載書式に必ず準ずる形でお送りください。

新刊書のご案内

◎森島寛 著『大洋州の経済と労働——民営化とは何だったのか労働とは何か』成文堂、2011年2月
（価格：税込4,725円 ISBN：978-4-7923-4230-2）

1980年代から90年代に、オーストラリア、ニュージーランドで展開された民営化の功罪を明らかにする。
出版社ウェブサイト <http://www.seibundoh.co.jp/pub/search/022382.html>

【諸届出／連絡先】〒105-0001 東京都港区虎ノ門 1-15-16 海洋船舶ビル 8階 CANPAN センター内
AcNet オーストラリア学会事務局担当 Tel 03-5251-3967 Fax 03-3504-3909 E-mail ac056-asaj@canpan.org

【オーストラリア学会事務局】

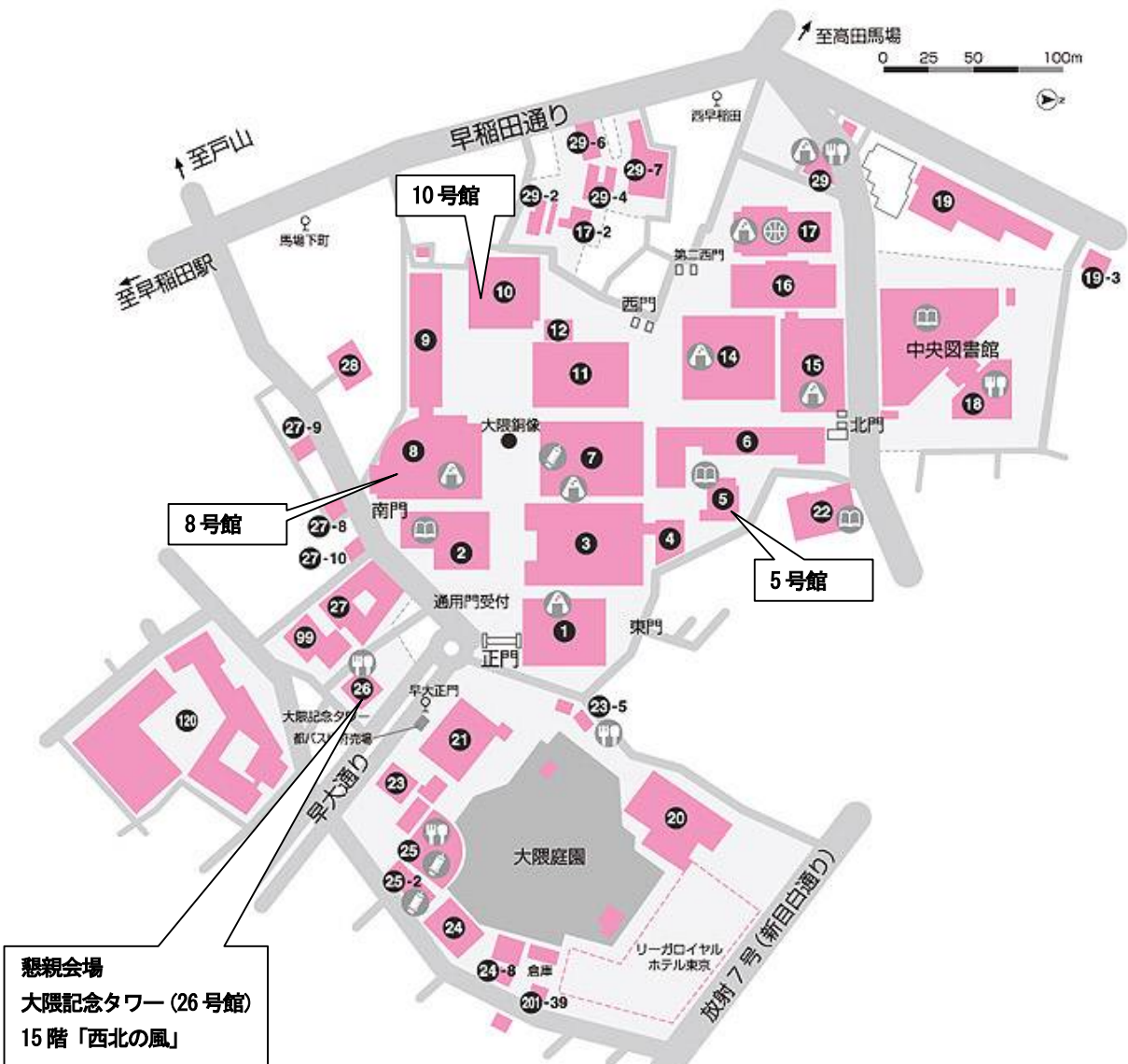
〒102-8554 東京都千代田区紀尾井町 7-1 上智大学文学部新聞学科内 鈴木雄雅研究室気付

電話 03-3238-3983 FAX 03-3238-3094 Email: HAF00025@nifty.ne.jp

会費振込先：00190-3-157063 加入口座名：オーストラリア学会

※本会報は学会記録以外に、会員のご意見やご要望を掲載します。意見、著書、新刊、訳書、投稿など、AcNet事務局担当までお送りください。なお紙面の制約上、掲載できない場合がありますことをご了承ください。
[編集担当：塩原良和（慶應義塾大学）]

【オーストラリア学会 22 回全国研究大会 会場のご案内】



住所 169-8050 新宿区西早稲田 1-6-1
JR山手線 (高田馬場駅 徒歩 20分)
西武線 (高田馬場駅 徒歩 20分)
地下鉄東京メトロ (東西線 早稲田駅 徒歩 5分)
(副都心線 西早稲田駅 徒歩 17分)
都電 (三ノ輪橋駅 - 早稲田駅 徒歩 5分)